



Title	Health Professional Meeting (H20) 2019
Author(s)	道永, 麻里
Citation	目で見るWHO. 2019, 70, p. 10-13
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86563
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

Health Professional Meeting (H20) 2019

Health Professional Meeting (H20) 2019 が、6月13日、14日の2日間にわたり、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC) への道」をテーマとして、日本医師会 (日医) と世界医師会 (WMA) の共催により、東京で開催されました。2018年4月、横倉義武日医会長が WMA 会長として、テドロス世界保健機関 (WHO) 事務局長との間で、「UHC の推進」と「緊急災害対策の強化」に関する覚書を締結しました。本会議は、その覚書の実践の場という位置づけであり、特に、UHC の推進における医師と医師会の役割に焦点をあて、講演及びパネルディスカッションが行われました。日本を含め 38 カ国約 220 名の参加がありました。



公益社団法人 日本医師会 常任理事

道永 麻里

千葉大学医学部卒業。2012年4月より現職。2016年7月より世界医師会理事、アジア大洋州医師会連合事務総長。2019年4月に世界医師会理事会副議長に就任。

開会式典

開会式典は、秋篠宮皇嗣妃殿下のご臨席を仰ぎ、挙行されました。冒頭、主催者挨拶として、横倉日医会長 (WMA 前会長) は、国境を越えた医師の結束がますます重要になっているとし、新たな元号「令和」が示す “Beautiful Harmony” の下に UHC の推進がいっそう進むことに期待を寄せました。また、レオニード・エイデルマン WMA 会長 (イスラエル医師会前会長) は、2030 年までに持続可能な開発目標 (SDGs) を達成するためにも、UHC の推進は国際社会にお

ける最重要課題であり、本会議において実行可能な解決策の議論を重ね、各国関係者の協力・連携の強化を図ることでさらに UHC の推進を図っていきたく述べました。

引き続き、秋篠宮皇嗣妃殿下より「お言葉」を賜りました。妃殿下は、結核罹患率や乳幼児死亡率の改善のために結核予防法が制定され、母子手帳が広く使われるようになり、1961 年に国民皆保険が達成されたことで、国民の生活は大きく改善されたと評価されました。さらに、人口の高齢化に対応するため、日医を含む健康関連の専門家が人々の健康に向け



開会式での横倉日本医師会長あいさつ

て活動していることにも触れられ、「皆様のご尽力が実りあるものとなり、全ての人々が健康で幸せな暮らしを享受できる世界となりますことを心から願っております」と述べられました。

また、安倍晋三内閣総理大臣からは、「UHC の推進は不可欠な要素であり、G20 大阪サミットの議長国を務める本年、この会議が開催されたことをうれしく思っている。今後も、世界の UHC の達成に貢献されることを期待する」旨のビデオメッセージが寄せられました。

世界保健機関 (WHO) と世界医師会 (WMA) の間における覚書

2018年4月5日
ジュネーブ、WHO本部
協力分野

WHO と WMA は、可能で必要な限り、次の分野で協力するつもりである。

- 概念の理解と積極的な参加を促進し、医師とその専門組織の役割に重点を置いて、すべての人々に対するユニバーサル・ヘルス・カバレッジを実現する。
- 保健医療従事者の教育、雇用および管理の強化。保健人材に関する WHO グローバル戦略：人材 2030、保健関連の雇用と経済成長に関する国連ハイレベル委員会および保健活動 5 年行動計画の提言は、保健問題のための人材協力の国際レベルでの包括的な政策と戦略的枠組みを提供している。
- 健康の社会的決定要因に基づく行動を通じて、健康関連の人権を積極的に推進し、医療保健分野での差別撤廃に関する国連共同声明の実施を支援しつつ世界中のすべての人々が医の倫理を十分に尊重することを保証すること。
- 医師およびその専門機関の役割に重点を置いて、国内および国際レベルでの緊急災害対策準備システムを強化し発展させること。

基調講演

ミゲル・ジョルジュ WMA 次期会長 (ブラジル医師会理事) の座長の下、基調講演としてサー・マイケル・マーモット WMA 元会長 (ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン疫学教授) による「健康の格差と健康の社会的決定要因」、山本尚子 WHO 事務局長補による「UHC の実現のために～何が必要か～」が行われました。マーモット教授は、人々の健康が経済格差や貧困などの社会環境に大きく

秋篠宮皇嗣妃殿下おことば

本日、「Health Professional Meeting 2019 ユニバーサル・ヘルス・カバレッジへの道」が開催され、人々の健康のために、たゆみない努力を続けておられる皆さまにお会いできましたことを、大変うれしく思います。そして、海外から参加していらっしゃる皆さまを歓迎いたします。日本でのご滞在が思い出深いものとなりますよう願っております。

すべての人々が、基本的な保健医療サービスを、必要なときに、適切な費用で受けられるようにするという重要な課題に、世界各地で取り組んでこられた皆さまに、心から敬意を表します。

20世紀の後半、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジの推進は、日本の発展に大きく貢献してきました。しかし、その過程では、困難の克服を目指す長い歴史がありました。

日本では、20世紀の半ばまで、結核罹患率や乳幼児死亡率が高く、人

々の健康は厳しい状況にありました。これを改善するため、1951年に結核予防法が制定され、公的機関と民間が連携して、結核の予防や治療のための包括的な対策が実施されてきました。また、すべての妊産婦と子どもの継続的なケアに必要な情報を家族と医療関係者が共有できるよう、母子手帳が広く使われるようになりました。こうしたことをはじめ、国を挙げての努力によって、結核罹患率や乳幼児死亡率は急激に減少し、1961年には国民皆保険が達成され、国民の生活は大きく改善されました。そして、人口が高齢化しつつある今日、日本医師会を含む様々な組織の健康関連の専門家が協力して、すべての人々の健康に向けて活動しています。

この度の会議における講演やパネルディスカッションでは、医師会、世界保健機関、患者団体、NGOなど、



秋篠宮皇嗣妃殿下

ユニバーサル・ヘルス・カバレッジを推進し、支援する方々がお話しになります。会場には、医療の将来を担う若手医師や医学生も参加しています。この2日間は、お互いの知見を共有し、多様な視点から、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジについて話し合い、それぞれの国や地域に合った進め方を考える貴重な機会となることでしょう。会議に参加された皆さまが、今後一層活躍されますことを、期待しております。

皆さまのご尽力が実りあるものとなり、すべての人々が健康で幸せな暮らしを享受できる世界となりますことを心から願い、会議に寄せる言葉といたします。

影響されているとし、より良い健康を国民に提供するためにも、医師・医療関係者がいかに行動を起こすかが重要になると指摘しました。また、各国における医療の不平等といえる健康格差は社会的危機でもあると強調しました。その解決のためには、UHCの推進に加えて、①小児期での最善な環境、②生涯教育、③雇用の確保、④生活水準を保つための最低賃金、⑤疾病予防について対策を講じる必要があるとの見解を示しました。その上で、健康格差を是正する方法は明確であり、予防することが可能であるとして、尊厳ある人生を送るためにもすべての国の政府が行動を起こすよう呼びかけました。

続いて、山本 WHO 事務局長補は、各国がどのように UHC を導入し、維持

・発展させていくかは本会議の重要なテーマであるが、2030年までの UHC の実現のためには、①政治的なリーダーシップ、②ヘルス分野への資金投入、③人材育成、④プライマリ・ヘルス・ケア、⑤地域づくりが必要になるとの考えを示しました。また、医師会に期待することとして、「医師が医療チームのリーダーとして、様々な職種への教育あるいは支援を行う」、「医療やケアの質に対する考え、評価、改善を行っていく上でリーダーシップを持つ」等を明示しました。その上で、「健康は人間の人権問題、そして社会正義の問題であり、連帯や結束の問題でもある。また、健康は開発、発展あるいは安全や平和の礎となるものである。これからも、医師会の方々と共に UHC の実現に力を尽くしていきたい」

と述べました。

セッション 1 UHC を達成する 方法についての見解

エナブレレ WMA 理事（元ナイジェリア医師会長）の座長の下、演者 5 名、コメンテーター 3 名により、UHC に対するそれぞれの立場からの発表が行われました。

ロゼニ国際患者団体連合（IAPO）理事（マラウイ）は、「患者の利益のため、UHC の実現を目指して、WMA 及び加盟医師会と協力する用意がある」とし、コメント WHO 保健人材担当調整官は、「UHC を実現できるか否かは医療従事者にかかっている」と述べました。國井修グローバルファンド戦略・投資・効果局

長は、持続可能な保健システムの強化に向けた医師会の役割と機能の強化、特に地域において置き去りにされている人々を救う努力と実践に期待感を表明しました。ケニア医師会キトゥル会長は、UHC達成には、「適切で十分に訓練された人材」、「予防と健康促進への注力」、「持続可能な医療費調達メカニズム」、「公的資金による戦略的医療への支出」が必要であると指摘しました。ワンケッダカー前インド医師会長は、医療提供においては高度に熟練した医療従事者の配置が重要であるとしました。その他、ティニオ元フィリピン医師会長、オレグブナム WMA-JDN (Junior Doctors Network) 代表 (ナイジェリア)、アルワダニ国際医学生連盟代表 (ヨルダン) によるコメントの後、活発な議論が行われました。

セッション 2

健康の安全保障と UHC

神馬征峰東京大学大学院教授の座長の下、演者 4 名による講演と討論が行われました。戸田隆夫国際協力機構 (JICA) 上級審議役が、災害、感染症の流行などの健康上の脅威に対処するには強靱な社会システムが必要であり、その鍵は人間、コミュニティ、行政、国そして国外からの「信頼」にあるとし、その信頼が果たす役割について言及しました。マイズリッシュ赤十字国際委員会 (ICRC) 駐日代表代理は、武力紛争によってダメージを受けた保健システムを、長きにわたり組織的にサポートしてきた ICRC の実績について説明しました。ファン ヒューリック国境なき医師団 (MSF) 日本医療アドバイザーは、UHC 促進のために

は医療の保護、医療に対する攻撃を阻止することが必要とした他、「医療従事者は患者に医療を提供したことで刑事訴追されてはならず、救命活動は犯罪ではない」としました。タイ保健省ワイボン国際保健政策プログラム部長は、タイの UHC は 2001 - 2002 年に全国での実現に成功したとするとともに、様々なグループは施設が医療部門の内外で行動的に相互連携をとることで、効果的な UHC 政策の維持と医療制度の回復力を支えているとしました。

セッション 3

UHC とプライマリ・ヘルス・ケア (PHC) の政治的側面 - 医療専門職の役割

中谷比呂樹 WHO 執行理事が座長を務め、演者 6 名、コメンテーター 1 名による発表と討論が行われました。レバノン保健省アマー事務局長は、より強力な医療専門職が積極的に関与することは PHC ネットワークの人間中心の医療への転換に貢献するとし、質の高い医療へのアクセスにおいて、レバノンは最もパフォーマンスの高い国の一つに位置付けられているとしました。渋谷健司キングス・カレッジ・ロンドン ポピュレーションヘルス研究所長は、世界の保健システムは、高齢化、慢性疾患、医療技術、グローバル化に翻弄されているとし、誰もが取り残されないように再構築する必要があると指摘しました。パーブ元アメリカ医師会長は、「オバマケア」で得られた利益を守りながら、強力な連邦政府のセーフティネット制度の下で市場ベースのソリューションを利用し、医療のさ

らなる拡大に向けて取り組んでいくとしました。クローバー WMA 事務総長は、PHC を機能させるためには、PHC が信頼に値するもので、医療の拡張性と発展への意欲をもたらすような包括的医療制度に組み込まれている必要があると説明しました。柏倉美保子ビル&メリнда・ゲイツ財団日本代表は、持続可能な保健システム財政の実現、効率的な PHC への投資、PHC へのパフォーマンス評価とデータ収集、国際保健機関間のパートナーシップ強化の重要性に言及しました。宇沢国際学館占部まり代表は、ヘルスケアシステムが社会的共通資本の最も重要な要素であるとし、豊かで魅力的な社会構築への礎となるとしました。最後に、医師の労働団体でもあるイギリス医師会ナグポール議長がコメントを行いました。

セッション 4

UHC に対する責任の共有と個人の義務

葛西健 WHO 西太平洋地域事務局長の進行により、横倉日医会長の講演とパネルディスカッションが行われました。横倉日医会長は、北里柴三郎先生の「予防医学を確立することが近代化である」という志を受け継ぎ、「人生 100 年時代に向けて、治療を中心とした医療のみならず、『予防・健康づくり』にも力点を置き、健康長寿社会の実現に努めていく」と述べました。また、現在の日本の国民医療費の現況についても触れ、「社会保障費は、高齢化によって医療・介護等を中心に、今後も増加していくが見込まれる」との認識を示すとともに、「国



議場から質問する中村安秀日本 WHO 協会理事長



参加者の集合写真

から社会保障費の抑制策が提示される中で、引き続き、『国民の安全な医療に資する政策かどうか』『公的医療保険による国民皆保険を堅持できる政策かどうか』を判断基準として政府に意見を述べるだけでなく、医療現場からの声を基に様々な提言をしていきたい」としました。

引き続き、横倉日医会長、モントゴメリー WMA 理事会議長（ドイツ医師会前会長）、鈴木康裕厚生労働省医務技監、戸田 JICA 上級審議役、平林国彦ユニセフ東アジア・太平洋地域事務局地域保健事業アドバイザー、ナムギャル WHO 南東アジア地域事務局事業統括部長、ガクルー WHO アフリカ地域事務局セシエル事務所代表、ユエ WHO 西太平洋地域事務局ヘルスシステム部 UHC 及び SDGs ガバナンスコーディネーターが参加し、パネルディスカッションが行われました。

その中では、UHC の達成に向けた課題として、主に医療関係者の人材不足の問題、エボラ出血熱等、地域特有の問題や各国の保険制度が異なる点、患者との関係等が挙げられました。特に人材不足については、プライマリ・ケアを担う人材が世界的に不足していることや、待遇・教育面において条件の良い都市部への人材の集中、発展途上国から先進国に留学した医学生などが母国に戻らないなど、絶対数だけではなく、偏在の問題も大きいとの認識が示されました。また、患者との関係性については、横倉会長が、提供する側と受ける側の信頼関係の醸成の重要性を強調した上で、我が国で患者権利法の議論が進んでいることを紹介するとともに、様々な問題の解決のために医師の団結を強く呼びかけました。

「UHCに関する東京宣言」を採択

(1) UHC とプライマリ・ケアの理解と関与の強化、(2) UHC の達成に向けた長期国家政策の策定、(3) 医師及び医師会の役割の明確化、政府と社会のあらゆる側面に向けた提言の策定—を主な内容とした「UHCに関する東京宣言」

UHCに関する東京宣言

Health Professional Meeting (H20) 2019 において、世界医師会 (WMA) と日本医師会 (JMA) は、世界保健機関 (WHO)、各国政府、政府間および国連機関、その他の組織によるユニバーサルヘルスカバレッジ (UHC) を提供するヘルスケア制度の開発を推進する取り組みを歓迎する。

私たちは、UHC を「すべての人々および地域社会が、その必要とする効果的で十分な質の、健康増進、予防、治療、リハビリおよび緩和に関するサービスを、経済的な困難を伴うことなく確実に享受できること」(WHO による定義) を意味すると理解する。

UHC は、ヘルスシステム自体の不平等を克服するためのツールである。

UHC は、人々のためのものであると同時に人々によるものでもある。

多くの国ではヘルスケアのための人的資源が不足している。私たちは、医療専門家の教育と定着化への投資を行う責任者すべてに対して、UHC を実現するよう求める。

これには、質の高い教育、継続的専門能力開発の機会、そして地域社会と患者に医療を提供する人々にとって、最も重要で安全、尊厳重視で魅力的な労働条件や生活状況が含まれる。

WMA は、世界のすべての地域における医師と医師会に対して、UHC の擁護と実現に重要な役割を果たすよう奨励する。

医療側からすれば、包括的ヘルスシステムの中核部分として質の高いプライマリケアの開発への強い関与を含め、UHC の概念を受け入れることに躊躇があってはならない。

私たちは、G20 の財務大臣 が UHC の発展を「開発途上国における、人的資本の開発、持続可能かつ包括的成長と開発、ならびにパンデミックや抗菌薬耐性などの健康上の緊急事態の予防、発見と対応」に貢献するものとして最近注目していることを歓迎する。

私たちは G20 サミットに対して、以上のことが G20 諸国のみならず、理由を問わずヘルスケアシステムに未だ十分な投資ができない他の諸国においてこそヘルスケアシステムに対する改善された持続可能な投資への道を鼓舞するという期待を表明する。

https://www.mof.go.jp/english/international_policy/convention/g20/communique.htm

https://www.mof.go.jp/english/international_policy/convention/g20/annex8_1.pdf

が採択されました。

同宣言の中では、世界中の医師と医師会に UHC の擁護と実現のために重要な役割を果たすよう求めるとともに、G20 サミットに対しては、ヘルスケアシステムに対する持続に十分な投資ができない国への投資を鼓舞することを期待としています。

レセプション・夕食会

13 日のレセプションには、麻生太郎財務大臣が出席されました。自身が議長を務めた財務大臣・中央銀行総裁会議で、

途上国における UHC の推進を議題に取り上げ、UHC ファイナンスの強化の重要性を確認したことに触れ、UHC 推進における医師会の役割の重要性を指摘しました。また、大阪で行われるサミットでも G20 財務大臣・保健大臣合同セッションにおいて、UHC 推進に向けた議論を深めていく考えを示しました。14 日の夕食会には、根本匠厚生労働大臣が出席しました。医療関係者の真摯な議論により、充実した成果文書が取りまとめられたと「東京宣言」を評価するとともに、日医、WMA の尽力を称えました。